

令和8年度_飯田市議会 社会文教委員会 所管事務調査（視察）報告

第1 調査実施期日

令和8年7月8日（水）～10日（金）

第2 調査事項（視察項目及び視察先）

- | | | |
|---|-------------------------|--------|
| 1 | ながのこども館ながノビ！について | 長野県長野市 |
| 2 | 部活動の地域展開について（文科系・スポーツ系） | 長野県千曲市 |
| 3 | 部活動の地域展開について | 新潟県村上市 |
| 4 | 総合型インクルーシブスポーツの実施について | 新潟県村上市 |
| 5 | 村上市屋内遊び場について | 新潟県村上市 |
| 6 | 黒部市放課後子ども教室について | 富山県黒部市 |

第3 参加者

社会文教委員長	下平 恒男
社会文教副委員長	宮脇 邦彦
社会文教委員	水月 レイ
社会文教委員	森本 紘司
社会文教委員	松岡 秀治
社会文教委員	長谷部春生
社会文教委員	古川 仁

第4 調査概要（視察報告）

1 長野県長野市

(1) 視察概要

- ①日時 7月8日（水） 9：30～11：00
- ②場所 ながのこども館 イベントスペース
- ③説明者 都市整備部公園緑地課 宮下結城課長、
上田浩貴管理担当主事、宇都宮庸雄管理担当係長、吉崎有哉管理担当主事
- ④事業概要等 子育て世代が天候に左右されず、こどもと安心して過ごせ、知育となる質の高い遊びを提供する場
所在地：長野市上松 2-4-5（城山公園内）
建 物：鉄筋コンクリート造、地上1階、地下1階
床面積：3,408 平米
エリア：森のたんけんひろば、科学と創造のひろば、宇宙アスレチック等
- ⑤視察の視点 飯田市でもこどもの室内遊び場設置に向けて今年度から検討を進める。令和6年度に市内唯一の屋内遊戯施設をオープンした長野市の取組をお聞きする。

(2) 調査報告（調査内容）

①施設概要と整備背景

- ・施設名・立地：ながのこども館（城山公園「ふれあいの森ゾーン」内）
- ・目的：天候に左右されずに、子育て世代が安心して過ごせる屋内遊び場の提供。
- ・経緯：老朽化した旧少年科学センターの代替として、パブリックコメントによる市民の強い要望（屋内遊戯施設の設置）を受けて整備。
- ・総整備費：約11億円
 - 財源として国の「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）」を約4億円（対象経費の2分の1）活用。
- ・発注方式：設計・施工を一括発注するデザインビルド（DB）方式を採用（受注：守谷商会・乃村工藝社のJV）。これにより工期を短縮。

②フロア構成と遊具の特徴

「のびのび遊べる楽しさ」と「安全性の両立」をコンセプトに、文部科学省の指針に沿った五感を刺激する遊具を導入。また、旧少年科学センターの展示物も一部再利用している。

- ・1階（主に乳幼児向け）：森のたんけんひろば、キッズエリア、ベビーエリア（2歳以下）。親子向けイベントスペースも兼ねる。
- ・地下1階（主に小学生向け）：宇宙アスレチック、デジタルコンテンツ（マインクラフト等）、サイエンスショーなどのエリア、ころろんシアターなど。

③運営体制と安全管理

- ・運営方法：指定管理者制度を導入。一般社団法人長野開発公社（隣接する城山動物園も一括管理しており、連携がスムーズ）。
- ・人員配置：平日は常時15名程度（夏休み等は20名程度）の手厚いスタッフを配置。

- 安全対策：人口密度が高く、小学生と未就学児の動線が交差するエリア（リトルアルプス周辺等）は特に事故が起きやすいため、スタッフ（常時2～3名）が見守りを強化し、分散を促している。
 - スタッフの資格：児童福祉施設ではないため保育士等の資格縛りはないが、初期は安全面から指定管理者の裁量の中で1名保育士を採用。基本は「自由に遊べる公園施設（屋根付き遊具場）」という原点を重視。

④利用料金の設定と財政

- 料金設定の考え方：年間維持管理費（約1億円）の50%（5,000万円）を利用者負担で賄う「受益者負担割合50%」を基本方針として設計。
- 現在の運用：当初想定（年間12万人）に基づき、計算。現在は条例の上限料金よりも低い金額の「市民割引」を継続適用中。
 - 料金例（休日）：小学生300円、大人600円（平日は半額程度）。市外利用者は市内の倍額に設定（市外客の理解も得られている）。
 - 現在の利用状況：1年目は約16万人。2年目は珍しさが薄れ2割～2割5分程度減少しているが、概ね想定通りで、リピーター確保が課題。3年ごと（次回は令和10年を予定）に料金見直しを行う。
- 物価高騰への対応：段階的に料金へ反映せざるを得ないが、緊急時は料金に跳ね返らせず、市全体の財政対策や補正予算（指定管理料の増額等）で対応する方針。

⑤今後の課題と展望

- 混雑対策：休日には2時間の入れ替え制（クール制・事前予約制、親1人につき子供3人まで）を導入し、1クール140～160人に制限しているが、エリア内の高密度化が課題。
- 親の休憩スペース：現状は子供が遊ぶスペースが中心で、親が休める場所が不足しているため、次期指定管理のタイミングで、設備投資によるリニューアルや模様替えを検討中。

(3) 質疑応答

Q. 大人の入場制限や、小学生だけの入場は可能か？（パンフレットの「大人1名につき子供3名まで」という表記について）

A. 小学生だけでの入場は断っている。原則として保護者の同伴が必要である。

Q. 「宇宙アスレチック」は3歳～12歳と対象年齢が幅広いが、激しく遊ぶ小学生と小さな子供との間でトラブルや怪我はないか？

A. 常に2～3名以上のスタッフが見回り（配置）をして目を光らせているため、現在のところ大きな怪我やトラブルは起きていない。1階の「森のたんけんひろば（リトルアルプス周辺）」など、小学生と未就学児が交差するエリアが一番危険で人口密度も高くなる。基本は親が見る建前だが、見きれない部分を指定管理者のスタッフが見守り、混雑時は他のエリアに分散してもらうなどして安全を確保している。「スタッフがしっかり見てくれるから親も安心」というアンケートの声もあり、手厚い配置が評価されている。

Q. 安全管理のためのスタッフは常時何人くらいいるのか？

A. 平日は15人程度、夏休みなどの繁忙期は20人程度を配置している。旧少年科学センター時代は10～12人だったが、あちらは「見る展示」だった。今回は「動き回る遊具」なので手厚くしている。ただし、人件費が指定管理料を圧迫するため、次回の指定管理更新時にはスタッフ数の適正化や、親の休憩スペース（現状不足している）を作るための設備投資・模様替えを検討している。

Q. 利用料金について、平日と休日で金額に差があるが、利用者数のバランスや収支はどうなっているのか？

A. 計算の基本：年間経費1億円の半分（5,000万円）を賄うため、年間12万人の来場を想定して1人あたり平均単価を約400円（※発言内の「800円」は市内外・大人子供の平均前のベース数値）と弾いた。

平日の設定：平日は主に未就学児と保護者しか来ないため、来やすくするために休日の半額にした。

市内・市外の差：市民は税金を納めているため、市外の人は倍の料金に設定した。

現状：1年目は16万人来たが、現在は珍しさが落ち着き2割～2.5割ほど減っている。3年に1回料金を見直すルールがあるため、当初の暫定料金から1年後に一度改定しており、次は令和10年に再度見直す予定。市外客の割合が3割ほどおり、しっかり市外からも集客できている。

Q. 休日のみ導入している「予約制・クール制（2時間入れ替え制）」の人数制限や、料金のカウント方法は？

A. 事前予約フォームで、親1人に対して最大3人まで子供を登録できるようにしている（平日は制限なし）。親が2人なら大人料金2人分、小学生が1人なら小学生料金が1人分、それぞれ個別にかかる（未就学児は無料）。

Q. 1階のベビーエリア（2歳まで）に親が付き添う場合、一緒に連れてきた上の子（2歳以上）がそのエリアで遊べず、親も目を離せないという問題は起きないか？

A. 案内上のルールはあるが、現実的に年齢の離れた兄弟を親1人で見るのは難しいため、現場のスタッフが混雑状況を見ながら臨機応変に対応し、安全に遊べるよう配慮している。

Q. 雨の日などは来場者数が増えるといった傾向はあるか？

A. 日ごとの天候と人数のデータはあるが分析できていない。観光やスキーで長野に来た家族連れが「外が寒すぎるから」という理由で子ども館に遊びに来た、という事例は実際に聞いている。

Q. 検討委員会のメンバー（教育委員会、PTA、有識者など）の構成や人数はどのくらい？

A. 具体的には、PTAの代表1名、教育委員会1名、児童発達の特任専門家（心理・障害等の専門家）、旧少年科学センターの館長、市の子ども未来部・都市整備部の部長。子供の教育に関わる有識者で構成された。これにより迅速な意思決定ができ、デザインビルド方式と合わせて工期短縮につながった。

Q. 物価や人件費が高騰する中、今後も利用者負担の考え方を維持して料金に跳ね返らせていくのか？

A. 物価高騰への対応は、この施設単体ではなく長野市全体の財政対策として考える。いたずらにすぐ料金を上げるのではなく、緊急対策としては料金に反映させない形で、

他の公共施設と同様に補正予算を組んで指定管理料を増額するなどの対応があり得る。ただし、数年後にはコストに見合う料金設定への改定を検討せざるを得ないと考えている。

Q. 見守りスタッフの中に、保育士の資格を持つ人や元教師などの基準はあるのか？

A. 児童福祉施設ではないため、スタッフの採用基準に資格の縛りは設けていない。開館当初は試行錯誤だったため、指定管理者側で安全面から保育士を11名配置したが、将来的な縛りはない。本来は「屋根のついた公園（アミューズメント施設）」という原点であり、こどもたちが自由に遊ぶ中で、結果的に学びや居場所という要素がついてくるのが理想。そのため、今後の指定管理でも、児童相談やカウンセリングといった専門資格の縛りを入れる予定はない。

(4) まとめ・考察

屋内遊技場ができるまでの経緯を詳細に伺うことができた。

意図としての屋根のついた公園というコンセプトには、出来上がるまでの経緯、所在場所等含めても納得できた。

こどもたちが自由に遊ぶ中で、結果的に学びや居場所につながるというのは、今後飯田市での基本構想ができていくが、その際に活かせる視点であると思う。

費用負担の考え方、料金の見直しに積極的な姿勢等も参考になると感じた。

(5) 各委員の所感

ア 良かった点

委員名	内容
下平 恒男	・旧少年科学センターの展示スペースがあることから、遊びだけでなく学びの場としての利用もできる。 ・動物園が隣接するなど立地条件が良い。
宮脇 邦彦	・長野市少年科学センターを2022年3月31日閉館したが、2024年7月28日わずか2年足らずでリニューアルオープンしたスピード感と跡地利用の視点。 ・建物及び遊具等の清潔感、安全安心の設計、城山公園内という立地の良さ。
水月 レイ	・スタッフの数が多く、安全面でも安心して遊べる。 公園施設なので、こどもが自由に遊べる室内施設という位置づけであるということ。 ・入場のところにあったおもちゃや雑貨エリアが珍しいものもあり惹きつけられた。 ・元々の科学館の展示物をうまく利用している。 ・電車やバスや車などのモノレールがとてもリアルでよかった。
森本 紘司	・動物園や公園と併設されており、駐車場も豊富で親子連れが訪れやすい環境に立地している。 ・平日は15名、休日は20名程度のスタッフが配置され安全性に配慮されている。

	・宇宙がテーマのエリアでは、ボールを投げるなど体を動かせ高学年も楽しめる。 ・休日は事前予約性で、完全入れ替え制とされている。
松岡 秀治	・動物園に隣接し、子ども達にとっていつでも思いっきり遊べる環境だと感じます。 ・天候に左右されずにいろいろな体験ができるのですべての子ども達が満足できるのでは感じました。 ・小さいお子さんも安心して遊べるのではと感じました。ちょっとしたハプニングなどがあっても授乳室等退避したりゆっくりできるスペースがあるのでお母さんも安心だと思います。
長谷部 春生	・工夫を凝らした遊具それぞれについて、安全への配慮が行き届いていると感じた。(実際に事故も1年近く起きていない。) ・マインクラフト等デジタルを否定することなく、体を動かす遊びと併設されて体験できるのは良いと感じた。 ・屋根のついた公園という考え方も納得できる。
古川 仁	・館内では、休憩スペースに電子レンジを設置。子どもの離乳食への対応等、心配りがされていた。 ・建てて終わり、ではなく「また来たい」と思わせる仕掛けづくりの大切さを学んだ → 特に館内の絵本や本などは「ブックシェアリング」(業者)に委託し定期的に変えているとのことでした。

イ 参考となりそうな点

委員名	内容
下平 恒男	・平日の利用は未就園の子どもさんがほとんど伺った。今後飯田市が検討する屋内施設については、利用状況やスペースなどを考慮して対象年齢を考える必要がある。
宮脇 邦彦	・財源として内閣府の地域未来交付金を活用している。 ・開館して約2年、市内のこどもが一度は入館済みという実績及び利用者が若干減少傾向とのデータから再度施設内改善を予定されており、ニーズへの対応の速さ。
水月 レイ	・地域未来交付金の使い方 ・室内施設の見直しを定期的に検討しているところ。
森本 紘司	・平日と休日、市内の方と市外の方の料金を区分している利用料金の設定。ランニングコストの半分は受益者負担にし、30%いる市外の利用者から多く負担してもらい維持費や新しい遊具導入に充てる考え方は非常に参考になる。 ・平日はほぼ未就学児の利用なので、費用を取らず利用しやすくされている。 ・3年に1度、価格の見直しを行うよう条例に制定している。
松岡 秀治	・都市整備の視点で進められたので、規制やしほりが少なく感じられ、子ども達もご家族の方も伸び伸びと時間を過ごせそうに感じました。

	・『遊ぶスペースに屋根を付けた感覚』との回答が固くなく遊ぶ場所として最適な快適さを感じます。
長谷部 春生	・料金設定の考え方、料金見直しに積極的な姿勢は市政全体としても参考になると感じた。
古川 仁	・子どもの居場所＝教育委員会と勝手に思っていたが、城山公園内の一部と言うことで交付金も「子ども・子育て支援金」ではなく内閣府デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）1/2等、活用している点。

ウ その他、感じたこと等

委員名	内容
下平 恒男	・年間のランニングコストの半分を指定管理料で負担するのは、長期的な視点から見てどうか。
宮脇 邦彦	・施設リニューアルに向けた現状分析の大切さを実感。築 36 年（1985 年建設）を経過し老朽化した少年科学センターは、ターゲット世代（小中学生）の入館数減と幼児世代の入館数増という利用層の変化が始まっていた。その実態を踏まえ全天候型室内施設としての「こども館」へ舵を切った。市民ニーズを得た視点が無ければ施設経営は成り立たないと再認識した。
水月 レイ	・市内だけでなく市外からも訪れているが、利用料に差がある。飯田市に置き換えたときに、飯田市民が安く利用できるのはいい方法だと思うが、あまりに市外を高額にしてしまうと気軽に遊びに来られなくなってしまうので、金額は慎重に審議が必要と感じた。大人の入場料金が高いとハードルが高くなると思う。 ・1 回行くと飽きるというのを、次回もまた行きたいとなるように定期的に変化をさせたり工夫があるとリピートに繋がる。 ・こどもだけでなく保護者も一緒に楽しめるような遊びやゲーム、E スポーツなどがあると特色が生まれる。 ・飯田市だけでなく近隣市町村、伊那や駒ケ根など南信地域を取り込んで人が呼び込めるような施設をイメージできるとよさそう。
森本 紘司	
松岡 秀治	・市外からの入館者には利用者負担の原則で料金設定が市内在住者と違う点は経営的な視点で参考になりました。また将来的には三遠南信やリニア駅開通を見込んで名古屋方面や静岡方面などから集客できるスペースとなりえるのではないかと感じました。このような施設がインターチェンジ付近にあると交流人口をとらえて、定住につなげられるように組み立てることもできるのではと感じます。
長谷部 春生	
古川 仁	・「また来たい」と思わせる仕掛けづくり…アイデアもそうだが維持費など課題と感じた。

2 長野県千曲市 【8日（水） 13:15～14:45 】

(1) 調査概要

- ① 視察項目 部活動の地域展開について（文科系・スポーツ系）
- ② 事業概要等 活動場所の確保（公共施設利用時の減免と学校施設の優先利用）
- ③ 視察の視点 学校施設の活用（活動場所の確保）、広域的な取組
- ④ 事業概要等 部活動の値域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要としている。
- ⑤ 視察の視点
千曲市では、隣接する坂城町と共に広域的な取組を実施しており、自治体の責任として部活動の地域展開を図る視点を持っている。

(2) 調査報告(調査内容)

① クラブ設立まで

- ・基本姿勢は、第4次長野県教育振興基本計画に則り、学校の役割と地域の役割を4つの柱に位置付け、人間にとって大切な「絆・コミュニティ・つながり」を育み、個人と社会のウェルビーイングの実現としている。
- ・千曲坂城クラブ設立までの経緯は、令和2年10月～千曲市教育委員会が主となり部活動改革の検討を開始
- ・更埴地区中学校部活動検討委員会を立ち上げ、文科省地域部活動推進事業研究指定校（長野市裾花中学校）とも連携しアンケート調査実施。
- ・関係機関・団体等へのヒヤリング及び打合せを生命保険会社等も含め実施し、令和2年12月には、地域移行基本案を作成に取り組む。その中で現在にも繋がっているが、行政はどこが受け持つのか、学校現場から部活動を切り離して大丈夫なのか、部活動は教育の一つの大きな使命と思うが関わりをどうするのか等、課題が確認された。学校、保護者、地域での受け止めに関する温度差は今でもある。
- ・令和4年4月 中学校部活動地域移行推進会議の設立
- ・令和4年7月 地域移行基本案が承認
- ・令和4年8月 クラブ運営準備会議にて具体案を作成し推進会議へ提出にて承認を得ている。
- ・千曲坂城クラブのスケジュールは、令和5年から休日部活動（1回/月以上）はクラブ活動とする。令和6年には、平日部活動も可能な限りクラブ活動とする令和7年には、令和8年4月から部活動を廃止しすべて千曲坂城クラブの活動を展開するようにした。
- ・千曲坂城クラブ設立 令和5年3月。すべての子どもたちにスポーツ・文化芸術活動を保障する基本理念の下、設立された。

② クラブ運営に関わって

- ・千曲市では、全ての運営を市教育委員会が受けている。よって、会長（市教育長）、運営委員会、専門部事務局等の全てが千曲市及び坂城町にて担当。
- ・千曲坂城クラブは、運営委員会（3回/年）、専門部事務局会（2回/年）で様々な課題検討を実施。

・安心・安全を保障し信頼あるクラブを目指して、コンディショニングサポートスタッフ、体罰・ハラスメント相談窓口、スクリレ（アプリ）を活用し保護者や指導者への情報発信を実施。

・活動費用については賛助会をつくり、個人会費（1,000 円/1 口/年間）団体/法人会費（5,000 円/1 口/年間）を設定し、令和 6 年から「ふるさと納税」もスタートさせている。

・指導者については、令和 8 年度 268 名（内 教員 60 名、有資格者 90 名）にてスタート。指導者は全員、「指導者登録届」をクラブ会長へ提出し承認をえている。教職員で希望する場合、「兼務等承認願」を提出し承認を得る。

・指導者研修はオンラインにて行い、一堂に会することはしない。

③ 令和 8 年度クラブ概況

・会員数 1,043 名 スポーツ系 784 名文科系 259 名(千曲市坂城町中学生 63%)
指導者数 268 名 スポーツ系 199 名文科系 69 名(教職員 60 名有資格者 90 名)
会費 3,000 円/年（保険代 300 円含む）

・設置専門部 運動系

バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、剣道、柔道、卓球、ハンドボール、サッカー、軟式野球、水泳、バドミントン、陸上、ボッチャ

設置専門部 文化/芸術系

吹奏楽、合唱、美術、歴史/科学、総合文化

・吹奏楽においては、地元吹奏楽団（千曲市吹奏楽団）の全面協力により指導

(3) 質疑応答

Q 展開前の当事者（生徒や保護者）への対応について

A 生徒及び保護者への説明会を各中学校で実施。

1～2 年生徒 5 回（5 校）、1～2 年保護者 5 回、新入生へ各小学校 12 回（12 校）

Q 指導者の確保と現状について

A 教員の兼職兼業(郡内小中高、郡外の教員)にて実施。更に各専門部の指導者の知合いに頼る

Q 広域（坂城町との連携）による取組のメリット・デメリットについて

A メリット：町の中学校に設置されていないクラブへ参加できる

デメリット：広域となり移動が不便。各自治体の足並みを揃えることが難しい（どちらか一方の事務局へ大きな負担となる）

Q 地域展開によって使用する道具等の対応について（特に吹奏学部）

A 基本的には学校設備品の使用。楽器に関しては、学校へ借用者を提出。
尚、修理代金については検討課題。

Q 活動日数について（生徒の希望通りかも含めて）

A 運動系部活は、ほぼ中体連の規定の上限日数

（平日 4 日/2 h、休日 1 日/3 h）

文化/芸術部活は、指導者の都合で少なく生徒の希望通りにはいかない

平日は、0～2 回（吹奏楽は 1 h 程度自主練習が 1 回～4 回/月）

Q 学校と教員の地域展開への関わりは

A 学校では、教頭・事務局教員（18 専門部中 11 人。全ての学校にはいない）が窓口となり、CSC 担当、連絡担当者を公務分掌に位置付けて教育委員会や各専門部事務局と連携している。指導者総数 268 名（内 教員 60 名/兼務兼業届提出）

Q 地域展開後の教員の負担感については

A 部活がなくなり時間確保ができる。他校の生徒や指導者との交流は良い刺激となる。（※専門部事務局を受けもち、仕事量が増えている）

Q 地域展開に対する保護者の受止めは

A 各小中学校で説明会を開催して来ており、冷静に受け止めていると感じている。子どもがやりたいことができる。専門的な指導を受けられる。（※移動が大変）

Q 地域展開後、生徒たちの様子の変化はどうか

A 他校に人と交流ができる。専門的な指導を受けられる。やりたいクラブに入れると、好評な面もあるが、移動が大変である。

Q 地域展開前後で部活動への加入状況(率)の変化は

A 全般的に下がってはいる。（外部組織の立上げ、ゆる部活の廃止）

坂城中 R6/71%➡R7/57%(休日展開)➡R8/52%(平日展開)

戸倉上山田中 R6/85%➡R7/69%(休日展開)➡R8/68%(平日展開)

埴生中 R6/73%➡R7/57%(休日展開)➡R8/56%(平日展開)

更埴西中 R6/65%➡R7/64%(休日展開)➡R8/58%(平日展開)

屋代中 R6/69%➡R7/67%(休日展開)➡R8/61%(平日展開)

地域クラブへ変更となり、生徒の中に無理して入らなくてもいいのでは、との意識が芽生えたと分析する。R 7 と R 8 でさほど差が無い数値がその裏付けと見ている。

Q 地域展開後の保護者の参加費等(経済的)負担は

A 年会費 3,000 円 月会費上限 3,000 円（1 時間約 107 円）

大会参加費、消耗品費など集金する専門部もある。尚、現在は免除や補助などの支援策はない。

Q 生徒の移動手段の方法について(送迎が困難な家庭への対応も含め)

A 自転車、保護者による送迎、路線バス、鉄道が主な手段。

各専門部へは活動費（移動補助や消耗品費）として、会員数割合で支給している（約 5 万円～30 万円）。現在、送迎が困難な家庭への支援策はない。

Q 地域展開後に保護者や生徒の意見(感想)等の把握について

A これまでは行っていないが、今年の夏休み前に郡校長会と連携して生徒・保護者・教職員アンケートを行う予定である。

(4) まとめ・考察

「地域の子供たちは学校を含めた地域で育てる」とした基本理念を基に、学校の役割、地域の役割を明確化させたことは、取組を加速させたのではないかと推察する。広域での取組ではあるが、千曲市教育委員会が運営及び事務局を担い軸となって進められているため、坂城町と相互に足並みを揃える努力は求められるものの、推進力になっていると実感した。広域の利点を生かし、子どもたちが交流し、つながり、多くの刺激を受けるチャンスのもとと捉えることが、部活動の地域展開の支え手には必要ではないか。学校を含

めた地域での子育てを共に行う仕組みづくりを展開したい。

(5) 各委員の所感

ア 良かった点

委員名	内容
下平 恒男	・下校から公共交通機関を利用した移動ができ、午後5時から午後7時の時間帯で練習が可能なことなど地理的条件が良い。 ・指導者の2割以上が教職員であり、早い時間からの練習に対応している。
宮脇 邦彦	・千曲市、坂城町との広域での取組としていることから、子どもたちの新たなつながりを創出している。 ・千曲市教育委員会がクラブ事務局含め一切を担っており、分かり易く、地域展開の推進力となっている。
水月 レイ	・地域クラブ運営委員会に生徒代表も参加しているところ。 ・広域での取り組みにより参加したいクラブに参加できるようになった。 ・地域移行への取り組みが早かった。地域のこども達は学校を含めた地域で育てるという意識が地域クラブ設立から強くあった。 ・令和8年度にすべての地域で部活動が廃止され完全地域展開された。
森本 紘司	・アプリを活用し、負担軽減や円滑な運営をされている。 スクリレ…情報連絡アプリ スクペイ…年会費や月会費の徴収アプリ（手数料なし、現金を集める必要なし）
松岡 秀治	・積極的に丁寧にデータを出していただき大変ありがたく感じました。
長谷部 春生	・アプリを活用し、事務の手間を削減していた。 ・学校備品（資産）について借用という手続きをきちんと踏んでいることを確認できた。 ・資産ではないが、部活動で持っているものについても今後検討が必要という点も知れた。
古川 仁	・基本理念 すべての子どもたちに「スポーツ・文化芸術活動」を保証すること 学校を含め、地域で子どもたちを育てる → 参考にもなった

イ 参考となりそうな点

委員名	内容
下平 恒男	・「地域の子どもは学校を含めた地域で育てる」という共通認識がある。 ・子どもたちの「やりたい、やってみたい」を重要視している。
宮脇 邦彦	・千曲坂城クラブ設立に際し学校の役割と地域の役割を明確にし、その基本姿勢としている点。 ・賛助会をつくり運営費用の仕組を設定、更にふるさと納税もその費用へ充てようとする視点。

水月 レイ	・兼職等承認願で教職員も指導者を目指せる。 ・補助金に頼らない運営制度。国庫が減った分年会費と月会費で賄ってるが、保護者負担も無理ない程度にしている。 ・会計処理の手間や手数料等を考えスクペイが使われている。 ・ふるさと納税や賛助会制度を使い運営も行っている。
森本 紘司	・教職員でクラブ指導を希望する場合は「兼職等承認願」を提出し、現在 60 名の教職員が指導者に登録されている。
松岡 秀治	・地域展開後の他校の人と交流が出来たり、専門的な指導を受けれたり、やりたい事が出来るといったメリットと合わせて移動の大変さがデメリットとして挙がっている。
長谷部 春生	・利用料金の考え方、なんでも減免ではなく、負担できる世帯にきちんと負担いただく姿勢が持続可能性を高めていると感じた。
古川 仁	・「部活動の地域移行」は先生を楽にさせるため…との考えがある中運営委員会等でしっかりと議論している点。 ・この運営委員会に生徒も参加している点 ・資金集め（賛助会）として企業からの協力・ふるさと納税活用している点

ウ その他、感じたこと等

委員名	内容
下平 恒男	・地理的条件や総合型地域クラブなどの状況がまったく違うので、参考にしにくい面が多い。
宮脇 邦彦	・指導者確保が部活動の地域展開には課題と聴くが、「指導者の知り合いを頼る」とした取組は、素直に腹に落ちた。頼り、頼られる関係性と正面から向き合うことが、やはり必要と感じた。
水月 レイ	・すべてを千曲市の教育委員会で運営されているため、取りまとめや、運営での連携は取りやすい体制だと感じたが、負担が増え圧迫されている現状の課題も感じた。 ・地域クラブになったことにより、気軽に参加したいこどものニーズに対応できなくなり、地域クラブに参加できないこどもが取りこぼされてしまい、その子達が参加できるような体制作りも課題だと知った。
森本 紘司	・運営を全て千曲市教育委員会でされており、行政の負担が多すぎると感じた。 ・国の補助金に頼らない持続可能な運営の為に、月会費の導入は必要だと感じる。
松岡 秀治	・地域展開の前後で何かしら活動に参加する子ども達のは数は減ってしまったことが示されました。経済的に負担であると感じる家族や送迎の問題が解決されないまま平日の部活道の地域展開の推進は一部の子ども達の可能性を広げる事にはならない政策となってしまう事を改めて感じました。 ・年間費 3,000 と月の会費 3,000 など家庭の負担が増えることはどこで

	も有ることだと感じます。
長谷部 春生	・加入率の問題は、ゆるい部活がないことで起きていると感じた。 ・教育委員会の職員の負担は大きいのだろうと感じた。
古川 仁	・行政が中心となり半ば丸抱えで進めている点は職員の負担も大きく心配である。 ・生徒の移動手段はどの自治体も課題としている点

3 新潟県村上市 【9日（木） 10:00～11:30 村上市役所】

(1) 調査概要1

- ① 視察項目 部活動の地域展開について
地域展開への経過と現在の状況及び課題、NP0 法人の関わり
- ② 事業概要等 地域クラブ活動は NP0 法人等が運営主体となる
- ③ 視察の視点
部活動の地域展開について早くから進めていることと、NP0 法人の関わりについて
地域展開にあたっての基本的な考え方
現時点での進捗状況
進めるうえでの課題
展開するにあたっての生徒・保護者への対応について
NP0 法人との関りが特徴的だが具体的な関り
指導者の確保と現状
道具の対応（吹奏楽）
活動日数について（生徒の希望通りか）
学校や教員の地域展開について（関り）
展開後の教員の負担感
展開に対する保護者の受け止め
展開後の生徒たちの様子に変化は
展開前後での部員の変化（増えた・減った）
展開後の保護者負担は
生徒の移動手段…困難な方への支援は
展開後の意見等の把握は
展開前後での不登校生徒の変化

(2) 調査報告(調査内容)

- ①説明者 村上市総合コーディネーター 渡 邊 優 子 氏
学校教育課 未来の学校創造室 課長補佐 林 洋一 氏
- ②「部活動の地域展開」の基本的な考え方
「部活動改革を契機とした新しいカタチの創造」
～部活動の地域展開がゴールではない その先の新しいカタチの創造～
- ③これまでの経過
・平成 17～23 サークル活動（希楽ターキララ）子どもたちの悩みから
→ 部活動にない女子バスケがしたい→総合型クラブ事業

- ・平成 24～28 新しいカタチの部活動→部活動に準じ部活にないもの
- ・平成 28～29 村上市第 2 次教育基本計画策定で提案
→部活動の運営方法等学校と地域で検討する機会創出
「村上市部活動の在り方検討会」設置→融合型提案
→「融合型」理解深まらず→スポーツ庁へ【融合】提案
- ・平成 30 国費の活用、先行投資、財源確保、希楽々へ先行投資
→【融合型】実践に向け中学校長会と議論
- ・令和 1 運営協議会の設置、コーディネーターの配置、
実態・意向調査、指導者研修会の試行→【融合型】誕生
- ・令和 2 運営協議会の継続、指導者育成プログラム研修会の実施
- ・令和 3 ～ 7 スポーツ庁方針策定に参画、検討会議、実行委員会等

④これからのカタチ

- ・令和 7 課題：部活動からの脱却、学校や地域を超えたエリア
マネジメント、持続のための財源の考え
- ・令和 8 すぐ先のカタチ：R 8 から運動部完全展開
1 種目 1 チーム、総合型クラブ、スポーツ少の組織統合
- ・令和 10 少し先のカタチ：プラットホームの構想横断が可能な組織
他分野との融合

近い将来：会費で運営→幼、小、中、高、大人、高齢者まで → 「多世代空間」

⑤実施に当たってのポイント

ア「融合型部活動」とは

◆学校部活動

- ・野球
- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・卓球…等

◆新しいカタチ

「融合型部活動」

↑
↑
↑

「学校が管理する地域活動」

◆地域の活動

- ・スポーツ少年団
- ・体育協会
- ・クラブチーム
- ・希楽々 ・保護者会

イ認定クラブ活動の要件

- ◆活動理念に賛同するものは拒まない
- ◆総合クラブが運営団体となり「総合管理」（会計を含む）を行う
- ◆「指導者育成プログラム研修会」を毎年行う…等

ウ責任の明確化

- ◆村上市教育委員会・・・部活動改革の法的責任
- ◆NPO 法人希楽々・・・市全体の総括管理
- ◆総合型 5 クラブ・・・地域の総合管理
- ◆総合型クラブ・・・指導及びマネジメント
- ◆スポーツ少年団・・・指導及びマネジメント
- ◆陸上競技協会・・・指導及びマネジメント
- ◆26 のクラブ・・・認定要件にあった活動

エ保護者への対応

- ◆中学生保護者 → 先行種目など PTA 総会等で説明
- ◆小学生保護者 → 「何故部活動改革なのか」から丁寧に説明

オ R 8 年 認定地域クラブの概要

- ◆スポーツ系 25 文化系（吹奏楽） 1
- ◆週 1 回～5 回 ◆参加費（月） 1, 0 0 0 円 ～ 4, 0 0 0 円
- ◆運営団体 5 団体 ※ 国・県等からの公的支援全体の 7 6 %

カ企業との連携

- ◆指導者の指導時間確保のため、就業規則の変更を要請
- ◆大手飲料メーカーと連携 地域貢献型自販機の設置（1 本につき 1 0 円）

キ放課後の再構築「アフタースクール活動」構想

- ◆認定地域クラブ参加率 5 0 % 台 → 「誰一人取り残さない」カタチへ
→ 放課後は生徒の成長に欠かせない重要な物

⑥地域クラブに参加しない生徒の活動の場の創出

- ・週 2 ～ 3 日 1 回 3 0 分 学習、文化スポーツ活動等多様な取組
- ・将来構想「子どもから大人までの多世代クラブ」
- ・子どもの自主性を尊重 大学生→高校生→中学生→小学生へ指導
→元気な高齢者が見守り（高齢者の社会参加）

⑦直面する課題と解決策

ア移動手段

- ◆現在「スポーツ振興車」で移動 → 総合型クラブが管理運営
H28 から各地区に配車 市がリース料を負担（約 1 3 0 万円）
※運送法上…同一組織内、自主事業の運行→実費内での授受は問題ない。外部組織への有償貸し出しは違反→リースでの共同使用は認めない
→運航規定の見直し・組織の統合

イ大きな大会どちらの名前で出場するか？問題

- ◆同じチームに部活動のみ参加の児童いる中で、クラブ名で出るか、中学校名で出るか、問題あり。生徒の気持ち尊重。

（5）各委員の所感

ア 良かった点

委員名	内容
下平 恒男	・早い段階から地域展開を視野に入れての「新しいカタチ」を目指している。 ・通学する中学校にない種目でも、認定地域クラブに参加し競技するこ

	とができて良かったという女子中学生の声が聞かれた。
宮脇 邦彦	・部活動の地域展開はゴールではなく、新たな価値創造のスタートとした視点。 ・動かないと課題は見えてこないとした取組への課題との向き合い方。
水月 レイ	・ただ部活動が地域移行するのではなく、全く新しい価値の創造という視点で捉えているところ。 ・中学生だけでなくこどもからお年寄りまでを巻き込み、地域一体で考えているところ。
森本 紘司	・地域クラブに加入しない生徒も含め、活動機会の創出として 10～30 分のアフタースクールを実施されている。 ・ハラスメント相談窓口を設置されている。 ・指導者確保の為、建設業の入札優遇などを導入し企業連携を進めている。
松岡 秀治	・改めて地域の子どもの未来のために何が必要かという問いの答えはそこに住む人の熱い思いがまず第一に必要であると感じました。
長谷部 春生	・指導者の資質向上に独自ライセンス制度を設け、指導者になりやすい環境を整備し、それがこどもたちにとっても良い環境になっている。 ・指導者の役割はこどもを夢中にさせること。楽しいというところがやはり重要。
古川 仁	

イ 参考となりそうな点

委員名	内容
下平 恒男	・認定地域クラブへの移行は当市でも進められている。全体をまとめる組織や運営方法をどうするか。
宮脇 邦彦	・融合型部活動として官民が相互に役割を担う、更に学校と地域の困りごとを共有している。 ・中学校保護者、小学校保護者との「何故部活動改革なのか」を丁寧に説明し、意見交換を繰り返した地道な取組への姿勢。
水月 レイ	・地域クラブに馴染めずどこにも属さないこども達の居場所としてアフタースクールを作り、30 分でも自分のやりたいことに取り組む活動をしている。 ・保護者への説明も丁寧にされている。 ・兼職兼業として指導者として関われる仕組み。稼ぐ地域総合型クラブという視点。 ・指導者プログラムがしっかりとあり指導者の質の向上に対しても市として取り組んでいる。 ・高齢者に対しても健康への取り組み、社会的居場所作り、雇用を生むことなど高齢者の可能性を活かしている。
森本 紘司	・部活動廃止後も、学校との情報共有がなされ連携が密にされている。 ・指導者への独自ライセンス制度導入し、指導者育成プログラム研修会

	を実施。 ・これまでの部活動にとられ過ぎず、広域や多世代クラブとしての展開もされている。
松岡 秀治	・国が進める前の早い段階から子ども達のスポーツや活動の課題に真摯に取り組まれている姿勢は大変参考になりました。 ・NPO組織の運営や人集めなど仕組みづくりや課題解決の困難はそのまま参考になりました。困難に対し思いを伝えて進める事が人を動かし人も組織も成長していくことができると感じました。 ・多世代との交流が子ども達の人格形成にいい影響を及ぼすことが確認できた。
長谷部 春生	
古川 仁	

ウ その他、感じたこと等

委員名	内容
下平 恒男	・先進的に突出した活動には、熱意のあるスーパーな人材が必要。 ・移動手段については、公共交通機関の不足など当市独自の課題がある。
宮脇 邦彦	・総括コーディネーター：渡邊優子さんの熱量に感心し、様々な意見の違いを乗り越える対話力と課題を見極める先見性に驚嘆した ・部活動の地域展開は中学生に限らず多世代との取組と捉える視点に、視野を広く持たなくてはいけない事に気づかされた
水月 レイ	・本気で改革しようとする大人がいれば、無理だと思っていたことも可能になっていく。関わるこども達が成長し、新しい形で地域クラブに関わっていくのも、卒業して終わりではなく、地域循環に繋がっている。 ・ボランティアで地域交流ができる経験も貴重である。 ・多世代交流というのは1つのキーワードである。 ・こどもから大人までが一緒に楽しみ、繋がれることがクラブが地域移行になった最大のメリットであり、そのチャンスを生かし、地域に賑わいをもたらすことを実現していて、とても市が元気だと感じた。市民が活発元気だと自然と市も活性化していくんだろうと感じた。 ・飯田市も市民ひとりひとりがエネルギーに元気に暮らせる市を目指したい。
森本 紘司	・運営体制図が整えられ、責任が明確化されているので安心して活動が出来ると感じた。
松岡 秀治	・部活動が学校内から地域へ展開が進められると地域性はあるものの、子ども達の参加率が一旦大きく減少してしまうことが確認できました。飯田市内でもそれは十分に起こりうることであるので、この数字をどのように課題として認識し、改善策を検討しどうやってより良い方向に進めていくのかが問われていると感じます。
長谷部 春生	・熱意のある、想いのあるお話が聞けたことは大変良かった。 ・地域展開はゴールではない、その先の学校と地域とが連携を強化して

	いくことが大切という視点は参考になる。 ・認定地域クラブの加入率が50%程度なことについて、支援などの問題よりも興味関心を引くことが難しい世代というのもあるだろうと感じた。(千曲市のゆるい部活がないため、加入率が一定以上という課題と同じという認識。)
古川 仁	

(1) 視察概要2

「総合型インクルーシブスポーツの実施」について

- ① 説明者 村上市総合コーディネーター 渡邊 優子 氏
 学校教育課 未来の学校創造室 課長補佐 林 洋一 氏

② 視点

経過について

全ての子どもたちが共に・・・どのようなものか

事業への参加方法

障がいのある子へのサポート

保護者のサポート（実施時、常に帯同か）

今後の事業の見通しは

③ これまでの経過 ～ 誰一人取り残さない ～

- ・平成27 「学ぶ」市福祉計画の未実施→障がい者スポーツを学ぶ
- ・平成28 「特別支援学校」授業指導・学級交流会指導
- ・令和2～ 「放課後活動開始」→ 障がい者の放課後が課題
 特別支援学校の寄宿舎生を対象に定期的な活動
- ・令和3 「多世代ボッチャ」「ボッチャ」の普及 高齢者と畳で競技
- ・令和6～ 「重点施策」機会の創出・楽しさ啓発・体験会
- ◆障がい者の放課後活動を進めるにあたり県障がい福祉課や市障がい者基幹相談センターに相談。特別支援学校へのヒアリング等も行い理解を深める
- ◆定期的（月2回）県障がい者スポーツ協会・新潟リハビリテーション大学と連携し実施
- ◆定期活動として「楽しい運動教室」（児童・生徒対象）「楽しい陸上教室」「パラアスリート体験」等、創出のモデルとしても行う

④ 課題と展望

- ・運動を窓口地域社会とのつながりが出来たことは社会参加の基礎固めとなったが、子どもたちの豊かな発想や興味・関心やニーズはそれぞれ違い尽きる事は無い。今後、どう発展させるかが課題
- ・障がい者の立場に立って考えること
- ・多様な組織との融合

⑤ 質疑応答

Q 資料概要版では「部活動の教育的意義の継承と発展」とあるが、説明では新しいカタチの創造では「部活動をコピーするものではない」とあり矛盾を感じるがどうか

A 「部活動の教育的意義の継承と発展」は国の指針からの引用。大きな大会などは古い考えで来ているところはある。否定はしないが子どもたちの自主性を尊重し地域展開をしていきたい。

Q 当初、市教育委員会や校長等、意見が合わずご苦労をされている。必殺技は「恋心」とあるが、どのようにその気にさせた（理解を深めた）のか

A 自分、ハードルが大好き。障がい等、無い方が不安。国もやっていないし、じゃあやってやろうとなる。

Q 経済的な理由で参加できない生徒の把握と対応は

A 把握はしていないが、やりたい子は来ている状況だ。そもそも、部活に関わらない子が半数いる。今後アフタースクールで関わっていければ

Q 地域や学校の体育館利用が重なってゆるくやりたい子ができないということはあるか

A 認定クラブ、放課後やっているところもあるがほとんどはやっているので大丈夫

Q 学校が週休2日制と同時期にスポーツクラブ導入。部活動の過熱もあり飯田市ではクラブの定着はあまりなかったが、村上市は多くのクラブが残っているのは地域性か、住民性か

A 信頼性かと。恵まれた環境ではなかったものでいろいろ考え取り組み、仕掛ける中で「競技思考」でなく「楽しんで」やってきた結果かと

(4) まとめ・考察

【参考となった点】

- ・部活動の地域以降では、国の指針が出る前から民間（希楽々）発信・主導で地域展開を進めてきた点
- ・部活動の地域展開がゴールではない その先の新しいカタチの創造の方向性のもとアフタースクール等「誰一人取り残さない」取り組みを進めている点
- ・立ち上げから教育委員会・校長会・保護者会等「何故、部活動改革が必要か」をしつかりと議論し理解を深めている点
- ・必要とあれば渡邊氏自ら国・県等に出向き中に入り意見をしている点
- ・参加費や移動手段等、負担軽減のためにあらゆる手立てをとっている点
- ・指導者確保のための研修や時間保障のため企業と連携している点

【その他・課題】

- ・今回の「部活動の地域展開」の基本的な考え方とは直接的には関連しないが、NPO 法人希楽々さんが進めている事業

◆買い物支援「ささえ隊」

- ・大手商業施設（イオン）と連携 区長・民生委員の協力 運動しない・嫌いな人を運動させる → 「おでかケア」

◆高齢者の社会参加

- ・「支える高齢者を育てる」→70 歳女性の通年雇用

◆希楽々が運営

- ・学童保育&子育て支援センター
- ・運動プログラム、農業体験、うんどうあそび、パパママカフェ等
- ◆希楽々の自主事業「ハワイアンフラクラブ」
- ・4歳～81歳 → これぞ「多世代クラブ」
- ・上記のように希楽々さんを中心に、地域を巻き込み進めてはいるが、ひといに「村上市総括コーディネーター」「スポーツ庁地域スポーツクラブ活動アドバイザー」「総合型地域スポーツクラブ全国協議会幹事長」「村上市スポーツ推進委員」「NPO 法人希楽々理事」である渡辺優子氏が居てこそだと考える。当市でも、その心意気や熱意に学び、課題解決にはどうすれば良いのか。「部活動の地域移行」の必要性をしっかりと地域の方や生徒・保護者等と議論するところからか考える。

(2) 各委員の所感

ア 良かった点

委員名	内容
下平 恒男	
宮脇 邦彦	・「放課後と多世代」というキーワードを示していただき、子どもの自主性と高齢者の社会参加の両面を今後つなげる取組とされている。 ・NPO 法人希楽々との連携を進め、地域大学など様々な関係機関と上手くやっている。
水月 レイ	・障がい児だけでなく健常者と合同で楽しめる取り組み。 ・こども達が障がいを理解するような体験会等の実施。
森本 紘司	・県障がい者スポーツ協会と新潟リハビリテーション大学と連携し、課題である障がい児の放課後の活動場所を希楽々で創出されている。
松岡 秀治	・飯田でも行われているボッチャが広く普及され、アスリートをはじめ多くの人に関われるように NPO が主体となって活動している。
長谷部 春生	・渡辺氏の大きな構想（妄想）があって、その手段のひとつとしてインクルーシブなスポーツ環境が整備されている。
古川 仁	

イ 参考となりそうな点

委員名	内容
下平 恒男	
宮脇 邦彦	・障がい者スポーツ実施体制図で、行政・NPO 法人・検討会議へ参画する各機関との連携体制が示され、機能する組織とされている ・「楽しい」の啓発を根本において、障がいのある児童生徒に地域の学びの場を提供している
水月 レイ	・発達特性や障がいのあるこどもを対象に誰でも楽しめる種目で身体を動かし交流している。
森本 紘司	
松岡 秀治	・パラアスリート共に NPO が主体的に地域を巻き込むことで参加者同士がつながるきっかけが作れ、そこから交流人口の創出を図っている。

長谷部 春生	・「楽しい」という出発点を忘れないように工夫がされている点。
古川 仁	

ウ その他、感じたこと等

委員名	内容
下平 恒男	
宮脇 邦彦	・地域の老若男女が様々なニーズを抱えていても「楽しい」というフレーズで体育、陸上教室、パラ体験会等を実施し、更に地域包括ケアとも連動させる活動へ高めようとする取組から、誰ひとり取り残さない活動の一端を伺った。
水月 レイ	・飯田市でも福祉イベントは盛んにされていて、障がいについて体験したり子ども達が障がいを理解したり障がい者と関われる機会はあると思うが、スポーツ環境を整えるという視点ではまだまだこれからいろいろ考えていかないといけない。 ・大人も子どもも障がいのあるないも関係なく、地域でさまざまな取り組みをして運動やスポーツ体験を通してつながりを作っているのはとてもよい取り組みであると感じた。
森本 紘司	・障がい児の地域との交流や学びの場として、放課後の居場所が必要だと改めて感じた。
松岡 秀治	・障がいがあるないにかかわらずこれからの時代にお互いに関わることが必要になってきていると感じます。それぞれの得意分野や活動しやすい環境でそれぞれがつながり支えあえるようになれるといいと感じます。
長谷部 春生	
古川 仁	

4 新潟県村上市〔9日（木） 13:15～14:45〕

(1) 視察概要

- ① 視察項目 村上市屋内遊び場について
 - ② 事業概要等 廃校の体育館を利用した屋内遊び場
 - ③ 視察の視点 市役所からほど近い廃校を利用した屋内遊び場の設置
- (1) 日 時 7月9日（木） 13:15～14:45
- (2) 場 所 新潟県 村上市役所にて座学 後 → 現地視察 →
屋内遊び場（旧村上市立神納東小学校体育館）
- (3) 説明者 こども課 課長 高 橋 朗 氏
こども課 子育て政策室長 長谷部 淳 氏
こども課 子育て政策室 副参事 渡 辺 悟 氏

(4) 事業概要等

- 【名 称】 村上市屋内遊び場
- 【住 所】 村上市上助測661番地1（旧村上市立神納東小学校体育館）
- 【開館時間等】 午前9時から午後4時（休館日12月29日～翌1月3日）
- 【利用者】 小学生以下の児童とその保護者
- 【利用料】 無 料
- 【利用実績】 R5：33,525名 R6：33,620名 R7：28,900名
- 【総事業費】 これまでの総整備費289,072千円
- ※令和6年～国からの子ども子育て支援金活用（充当率90%）
（一般財源 1億5,900万円）

(2) 調査報告(調査内容)

① 経過について

ア 市民からの要望の声

- ・第2期村上市子ども・子育て支援事業計画策定（令和元年）時にニーズ調査を実施。
「屋内で遊べる施設」の要求が非常に多く、協議を踏まえ閉校した小学校の活用に至る。

イ 設置に至った経過と背景 予算規模 → 上記に記載

ウ 廃校体育館利用に至った経過 → 上記に記載

エ 検討の「場」

- ・学校跡地利活用検討委員会（庁内 副市長・関係課で構成）

オ 遊具・配置の選定

- ・当施設は「避難所」にも指定されていることから災害時に移動できる遊具とし、地域子育て支援センター職員・総合型地域スポーツクラブからの意見を元に選定

カ 至るまでのスケジュール感

- ・R1・2年度：学校跡地利活用検討委員会により構想決定
- ・R3 年度：関連予算執行
- ・R4 年度：開館及び校舎棟活用基本設計

キ 設置への課題

- ・建築基準法による児童福祉施設への変更、空調の導入、駐車場の不足

② 子育て支援の面から

ア 子育て支援としての役割

- ・天候に左右されない屋内の遊び場として、また校舎棟に「地域包括支援センター」「療育相談室」を併設。子育て機能の充実を図っている。
- ・屋内で遊べる機会の提供
- ・健全育成として保護者と共に過ごせる場の提供

イ 対象を小学生までとした理由

- ・幼児をはじめ不特定多数が利用するため「安全性の確保」と中学生以上はクラブ活動等ある程度他施設を自由に利用できるため

ウ 子どもだけの利用不可の理由

- ・上記のように不特定多数の方が利用することと施設職員だけでは人員も不足しており安全に見守りができないため

エ 学校帰りの子が利用できないが市民の声は

- ・「利用時間は午後4時まで」でおおむね理解をいただいていると考えている。

オ 利用者の感想

- ・開館時よりアンケート実施。非常に好評を得ているが、市内他地域での整備・当館の充実・空調の導入（解決済み）公園等の屋外施設の充実の声も多い

カ 子どもの発達への影響

- ・統計、検証は実施していないが、運動する機会の提供で、子どもの運動機能向上に資していると自負しています

③ 運営について

ア 管理は委託？ 直営？

- ・屋内遊び場は直営、校舎棟の学童保育所、地域子育て支援センターは、業務委託による運営。校舎棟含め子育て支援拠点施設が完成した後、全体を「指定管理者制度」の導入を検討している

イ 維持管理の課題（清掃・空調）

- ・駐車場の不足に伴う敷地内区画以外の駐車場の対応

ウ 利用者登録に至る経過

- ・利用対象の確認、入退館の確認のため「利用申請書」への記入をお願いしている。利用者登録はカードの発行により登録の簡素化。利便性の向上のため市のDX実行計画に基づき実施

エ 昨年空調工事を施工したが当初は予定しなかったか

- ・空調は中型スポットエアコンの配置ほか、令和6年度に冷暖房を完備した休憩スペースを校舎棟に設置して対応していたが、利用者から空調の設置の要望が非常に多くあり幼児等の利用も勘案し「空気式床放射冷暖房方式」を選定し整備した。

オ 敷地内でのキッチンカーの出店が可能となったが子育て支援の一環か

- ・近隣に飲食店がないことや施設の活用、利用者の利便性の向上のため導入。

カ 使用後の遊具の消毒について

- ・コロナ禍はすべての遊具をしていたが、以降は手で持つものは毎日行い、大規模遊具は適に行っている

(3) 質疑応答

Q 利用料徴収の検討はしたか

A 子育て支援として無料。令和6・7年度市内すべての使用料見直ししたが、対象外とされた。

Q 保護者以外の見守り体制はどのようなになっているか

A 施設管理人を1人設置

Q 利用者の範囲を限定しているか

A 市内在住に限定していない。利用者の3割程度は市外の方

Q 利用時間帯が9時から16時だが、この時間帯について要望はあるか

A 16時以降は家事があるためか、要望はない

Q 学童保育の児童もこの施設で遊ぶことができるのか

A 指導員が付き添い、開館時間内なら利用可能

Q 整備費用の財源は

A 子ども子育て支援地方債（充当率90%、交付税50%）を活用した

Q 学校の長期休暇に近隣から遊びに来ることはあるか

A インターネット検索をして他市町村から遊びに来る方もいた

(4) まとめ・考察

- ・廃校とはいえ、築30年、まだ新しい校舎をうまく利用している点

- ・国費（子ども・子育て支援金）等活用している点

- ・「空気式床放射冷暖房方式」により床から冷気が出ており快適な点

- ・遊び場だけでなく、学童保育所、地域子育て支援センターも併設されており子育て支援拠点施設として、今後活用される点

- ・今回、直接の項目ではないが廃校利用ということもあり学童施設のスペースが広く子どもの居場所としては素晴らしいと感じた

- ・利用登録に、市のDX担当課と連携しカードを発行、管理している点

【課題等】

- ・「空気式床放射冷暖房方式」は電気のみ稼働ということで災害時の停電等発電機が必要なのか、避難所となっているので心配である

(5) 各委員の所感

ア 良かった点

委員名	内容
下平 恒男	・体育館利用なのでスペースが広いほか、入退館をDX化している。 ・廃校としては比較的新しいので、わずかな改築で児童クラブとして利用している
宮脇 邦彦	・廃校の跡利用として体育館をこどもの居場所、また教室を学童保育所として併設させている視点。 ・子ども子育て支援事業債等を利用されており、予算意識を学ばせていただいた。
水月 レイ	・市内市外問わず、無料で利用できる点。

	・廃校をうまく子育て支援施設や児童クラブも併設しているところ。 ・空調設備も整っているところ。 ・思い切り体を動かせる場所である。
森本 紘司	・市の中心地にありアクセスが良く、廃校にしては施設が新しく快適に利用できる。 ・体育館が広いので半分が遊具、半分がボール遊びなど体を動かせる様に区分けされている。
松岡 秀治	・市役所から車で 10 分もかからず、近隣のインターチェンジから車で 2～3 分なのでアクセスはとても良い。 ・市内在住者だけでなく市外からの来館者も無料で利用できる点は有難い。 ・利用者の 3 割は市外からの来館ということで子育て世代に村上市を知っていただくにはとても良い施設であり、交流人口をきっかけに移住につながる取り組みと感じました。 ・暑さを感じさせない涼しさと開放感でとても気持ちよく過ごせると感じます。
長谷部 春生	・計画から実施までかなりスピーディに行われており、改良も行われている。
古川 仁	

イ 参考となりそうな点

委員名	内容
下平 恒男	・空調システム（空気式床放射冷暖房方式）については研究の必要はあるが、導入コストと維持費を考えるとどうか。
宮脇 邦彦	・空気式床放射冷暖房方式による空調設備となっており、小さな子供でも床から暖かさ冷たさを感じることが出来て、熱効率が良い。 ・学童保育の子どもたちも、快適な体育館を使用できるため、ストレスが溜まらないのではないかと。
水月 レイ	・こども子育て支援金の活用方法
森本 紘司	・今後飯田市も廃校が増えると考えられるので、立地の良い場所は総合子育て支援施設として活用することは有効だと感じた
松岡 秀治	・今後、廃校や活用されていない建築物をどのように投資して、どのように関係人口や交流人口を生み出し、どのようにして定住化につなげていくかを見守っていきたいと感じます。
長谷部 春生	・閉校学校の活用事例として非常に良い事例だと感じた。子育て支援センター、学童保育、こどもの屋内遊び場として複合的な活用ができています。
古川 仁	

ウ その他、感じたこと等

委員名	内容
-----	----

下平 恒男	
宮脇 邦彦	・体育館の床、マット、遊具等、とても清潔感があり管理が行き届いている。 ・学童保育所との導線も清潔感があり、トイレも多目的含め充実していた。
水月 レイ	・まだまだきれいな校舎だから利活用もできるが廃校すべての校舎がこのような利用できるわけではないことも感じた。 ・ただこのように体育館など空いている施設があるならば、耐震に問題がないならばこうして遊具を置きこどもの遊び場として利用できるのはとても良い方法だと実際見て感じた。
森本 紘司	・体育館の遊び場だけでなく、地域子育て支援センターや学童保育所も併設された子育て支援拠点施設として集約されていて、利用しやすいと感じた。 ・全ての方が無料で利用できるが、市外の利用者も3割いるので有料にしても良いのではと感じた
松岡 秀治	・平らな空いているスペースを上手に活用している。
長谷部 春生	・利用料を徴収しても良いのではないかと感じた。(市民は減免としても、3割の市外の方からは特に。) ・学童保育の遊び場として活用できると子どもにとっては良いのではと感じた。(支援員の負担は大きいものになる。)
古川 仁	

5 富山県黒部市 [10日(金) 10:00~11:30]

(1) 調査概要

ア 視察項目 黒部市放課後子ども教室について

イ 事業概要等 公民館や学校の余裕教室を拠点として、小学生を対象に「放課後子ども教室」を開設することで、子どもと大人とが交流する機会をつくり地域の繋がりを強くする。

ウ 視察の視点 実行委員会形式で行っている点について

(ア) 日時 7月 10日(金) 10:00~11:30

(イ) 場所 黒部市役所(座学)

(ウ) 説明者 生涯学習文化課課長補佐 辻 清人 氏

(エ) 視察の概要 黒部市では、放課後や週末等において、子どもたちに学習や様々な体験交流の機会を定期的・継続的に提供するため放課後子ども教室推進事業を実施している。

(オ) 視察の視点

- ・放課後子ども教室実施に至った経過と趣旨について
- ・実行委員会形式など組織的な点について
- ・放課後子ども教室の実施要綱及び実施状況について

(2) 調査報告(調査内容)

(ア) 黒部市の概要

人口 39,697 人 世帯数 15,845 世帯 (令和8年3月31日現在)

面積 426.31 km²

県の東部に位置し北西部は富山湾、南東部は飛騨山脈に接する。水量豊かな黒部川流域にあり黒部峡谷や宇奈月温泉にアクセスできる。

(イ) 聞き取り概要

① 取り組みに至る経過と趣旨

子どもたちを取り巻く社会環境が年々変化するなか、学校や公民館等を活動の拠点とし、小学校全児童を対象とした「放課後子ども教室」を開設することで、子どもと大人が交流する機会を提供するとともに、様々な体験活動を通して、子どもたちの心身の健全育成を図る。

② 事業内容と取り組み状況

ア 実行委員会の設置

実行委員会は学校教育関係者、PTA 関係者、社会教育団体関係者、行政関係者などで幅広く構成されている。

イ 活動の実施場所

学校(教室や余裕教室、校庭、体育館) 公民館等の社会教育施設、地域の集会所など活動が安全にできる場所。

ウ 活動の実施主体(役割)

- ・事業費の管理・全体運営→ 生涯学習文化課・コーディネーター
- ・企画運営、必要書類作成→ 主に公民館
- ・子どもへの周知→ 主に学校

エ 活動状況

小学校が地区ごとに1校あり9地区あるため、9校区で年間のべ150回程度の教室を開催している。(地区によりばらつきあり) 基本的には振興会長(当市ではまちづくり会長)と公民館主事(会計年度任用職員)を中心に、内容により地元ボランティアの協力を得て開催されている。

(3) 質疑応答

Q 学校との連携と参加の申し込み方法は

A 校長の理解を得て募集用紙を学校で配布している(中には集約も実施)

Q 放課後児童クラブとの関係について

A 9校中7校で連携事業の実績がある(のべ38回)

Q 活動の時間帯は

A 地区ごとにまちまちだが2時間程度。会場によってはいったん帰宅してから参加する児童もいる

Q 参加費の負担はあるか

A 活動によってはある(料理や手芸、工作など)

- Q 申し込みをすれば必ず参加可能か
 A 原則可能だが、まれに対応できない場合もある
 Q 参加しにくい児童への特別な対応をしているか
 A 家庭環境がわからないので対応は難しい
 Q 参加児童が多い地区はそもそも児童数が多いのか
 A 必ずしもそうではないが、地区行事のような活動は参加が多い
 Q 事務局対応の教室とは何か
 A 仕組みを伝えるための全市的な活動である
 Q 公民館主事の立場は
 A 公民館長は会計年度任用職員だが、公民館主事は市民である

(4) まとめ・考察

放課後児童クラブが、児童の適切な居場所を確保することで児童の健全育成と、保護者の子育てと仕事の両立を支援する事業に対し、黒部市の放課後子ども教室は、教室の指導者に地元ボランティアを活用することで、世代間交流の機会をつくり、地域のつながりを強くすることを目的としている点は先進的である。また9地区すべてで取り組みを進めるために、行政が中心となり実行委員会制を導入し、ネットワークが構築されている点も参考にしたいと感じた。

(5) 各委員の所感

ア 良かった点

委員名	内容
下平 恒男	・放課後児童クラブの意義と、放課後子ども教室の意義を明確にし、はっきりと分類している点。
宮脇 邦彦	・夏休み冬休みを中心にではあるが、市内9校区全てで実施されており、各地区の特色と地域で子育てをしようとする意識の高さ。 ・活動予算の確保へ地域と担当部局が一体となって取り組んでいる。
水月 レイ	・市の各地区それぞれに放課後子ども教室があり、多くのこども達が参加している。 ・地域の方々の活躍の場としても成り立っている。 ・山間部にもスクールバスがあり地域差をなくす努力をしているところ。
森本 紘司	・9つの小学校区全てで放課後子ども教室が開催されている。 ・毎年新しい内容を取り入れ飽きない工夫もされている。
松岡 秀治	・親切丁寧で子どもの未来を考えた熱い職員さんが印象的でした。 ・どこでもそうですが地域の子どもの未来を考え行動し、より良くしていくのは地域の大人たちしかいけませんのでキーマンや多世代のつながりや交流をどう生み出していくかがポイントだと感じます。
長谷部 春生	・実行委員会はトップダウンで作られたが、公民館と連携して拡大していった点。 ・飯田市のまちづくり委員会同様に、自治振興会が組織されており、その意向によって公民館活動を含む地域の活動が行われている。

古川 仁	・地域の方や公民館の方が「どっぷり」と関わって運営をしている点。
------	----------------------------------

イ 参考となりそうな点

委員名	内容
下平 恒男	・目的が学童保育と異なり「世代間交流による地域のつながりの構築」としている点は参考にしたい。 ・活動の主体が公民館であることから、公民館活動が盛んな当市にも応用できる部分があるのではないかな。
宮脇 邦彦	・子どもたちの移動手段として、スクールバスを利用している。 ・放課後児童クラブとも連携しており、子どもたちの交流、友だちづくり等へ幅広く生かされている。
水月 レイ	・児童クラブと連携している地域も多い。 ・地域で顔の見える関係性をどのように築いていくか。
森本 紘司	・担当者会議を開催し、各教室同士の情報共有が行われている。 - 飯田市では担当者レベルでは情報共有がされていないので、ぜひ会議を持ちたい。
松岡 秀治	・各地区7月から年末にかけてその地域の伝統行事も含めいろいろなことに挑戦されている。地域の大人も参加しやすくしていることは多世代の交流につながり、子ども達にもいい影響につながると感じます。 ・誰もが参加しやすい雰囲気があるように話から伝わってきた。地域の子どもは地域で育てるという意識が強く感じられる。
長谷部 春生	・放課後児童クラブと放課後こども教室の連携を図ることが、国の方針としてお話をされていたが、その点は知らなかったなので、調査してみたい。
古川 仁	・各地区に「お任せ」ではなく実行委員会・企画会議・担当者会議等しっかりと連携し放課後子ども教室を運営しているところ ・各公民館の主事さんは当然市の職員かと思っていましたが地域住民とのことで改めて皆さんの熱意を感じた

ウ その他、感じたこと等

委員名	内容
下平 恒男	・行政側から各地区公民館に、取り組んでほしいとはお願いできない。
宮脇 邦彦	・各地区公民館と連携をされており、飯田市との取組に似ている部分を感じた。 ・市内9校区全てで実施されており、ボランティアスタッフの高齢化はあるものの地域のつながりを感じた。なかでも黒部踊り教室への参加は多く、地域行事と放課後子ども教室の連携は不可欠と感じた。
水月 レイ	・児童クラブに行っていないこども達も、放課後子ども教室に参加しやすい体制を作っていると感じた。 ・公民館の活用が積極的で、うまく地域活性の場になっていると感じた。 ・地域がこどもの居場所作りを必死に考えている中予算が削られてなんとか100万までは確保したという話を聞いて、これだけ各地域に放課後

	こども教室があり需要があるのに、市の必要度の認識が低いのかなと感じた。飯田市も各地域で放課後子ども教室ができ、公民館活動が増えたら地域と子ども達の繋がる場がもっと増えるのではないかな。得意なことがたくさんある地域住民の方の活躍できる場という観点からももっと積極的に広めていけないかな。 ・こどもや保護者や学校を巻き込んでいく情熱力の大切さを強く感じた。
森本 紘司	・飯田市では5つの地域での活動だが、予算が十分に確保されていると感じた。 ・コロナ後に人と人との繋がりが更に強くなり令和 6・7 年と公民館利用者が増加した。災害の影響もあると思うが、素晴らしいと感じた。
松岡 秀治	・子ども達の中には一旦学校から家に帰ると子ども教室に参加しにくい子どもも一定数いる。そこをどう促して参加してもらえるようになるかがこれからの課題。特に中山間部では参加率が低いようです。
長谷部 春生	
古川 仁	・地区の催しが好きな子どもは喜んで参加をすると考えるが、企画が合わない子、面倒くさい子等、参加できていない子へのアプローチをどのように考えていくのか課題と感じた。